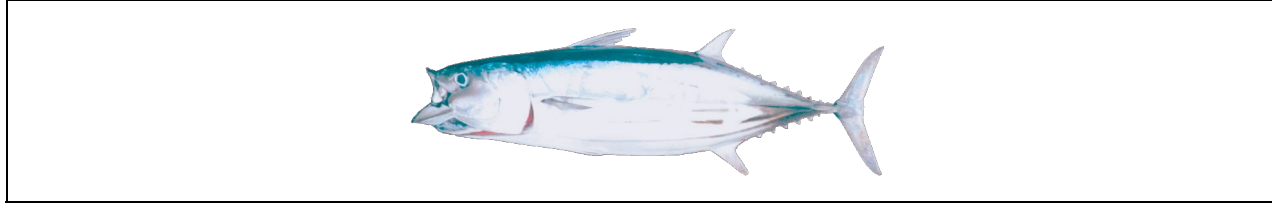


カツオ 大西洋

Skipjack *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 100 cm・15 kg
- 寿命：6 歳以上
- 性成熟年齢：満 1 歳ですべて成熟
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯～温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海鳥類等

利用・用途

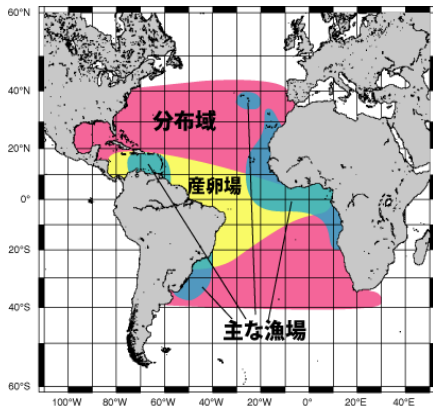
缶詰等の加工品

漁業の特徴

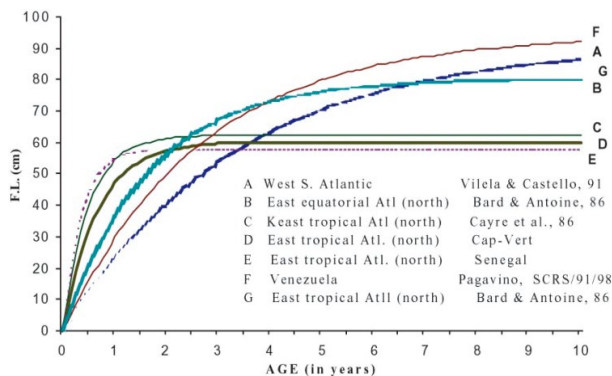
主要な漁業は、東部大西洋ではスペインのまき網、ガーナ及びスペイン等の竿釣り、西部大西洋ではブラジル等の竿釣り、ベネズエラによるまき網である。ひき縄やはえ縄でもわずかに漁獲される。東部大西洋では、2003 年以降にパナマでの漁獲量が増加し、2011 年にはポルトガルよりも多くなった。主な漁場は、アフリカ西岸ギニア湾の赤道を中心とした熱帯域～北西岸モーリタニア沖のまき網漁場と、ブラジル南東岸沖の竿釣り漁場である。まき網は、1991 年から人工浮き漁礁 (FAD) 操業が本格化し、漁獲量が増大した。日本は大西洋でカツオを主対象とした漁業を現在行っておらず、はえ縄で大型のカツオがわずかに混獲されるのみである。

漁獲の動向

年間漁獲量は 1960 年代には 4 千～5 万トン、1970 年代には約 5 万～約 12 万トン、1980 年代には約 11 万～約 16 万トンで推移した。まき網の FAD 操業開始により、1991 年約 22 万トン、1993 年の約 21 万トンがピークで、1995 年から 2000 年代にかけては約 12 万～約 18 万トンで推移した。2011 年以降、漁獲量は 20 万トンを超えるようになり、2024 年には約 20.5 万トンを記録した。日本は、1980 年代前半まで東部大西洋で竿釣り操業を行い、1976～1981 年には約 1 万～約 2 万トンを漁獲したが、現在、カツオを主対象とした操業は行われていない。



大西洋のカツオの分布域、産卵場及び主な漁場



大西洋のカツオの成長曲線

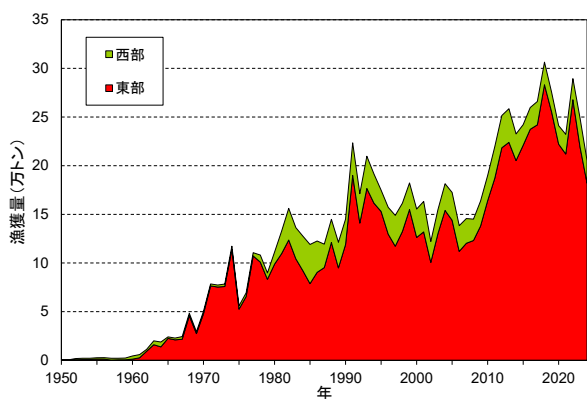
A～G の曲線は各海域で報告されたカツオの成長を示す。

資源状態

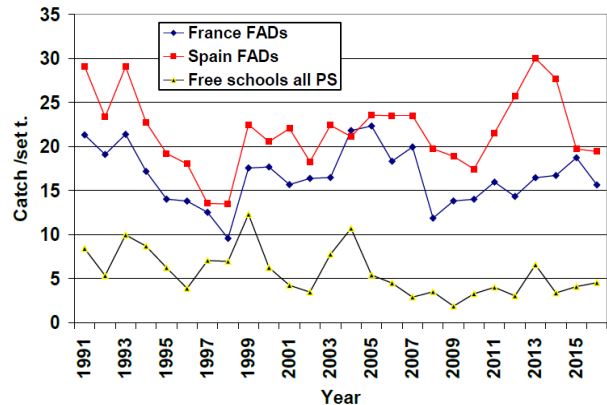
2022年にICCATの科学委員会(SCRS)において資源評価が実施された。大西洋における本種の漁業・生物学的特徴を考慮して東部・西部大西洋の2海域に区分して資源評価を実施した。東部大西洋ではプロダクションモデル(JABBA)及び年齢構成モデル(SS3)、西部大西洋ではSS3を用いて資源評価を実施した。これらのモデルから東部大西洋では B_{2020}/B_{MSY} の中央値は1.60(95%信頼区間0.50~5.79)、MSYが216,617トン、 F_{2020}/F_{MSY} の中央値は0.63(同0.18~2.35)となり、資源状態は乱獲状態でもなく過剰漁獲でもない判断された。西部大西洋では B_{2020}/B_{MSY} の中央値は1.60(同0.90~2.87)、MSYが35,277トン、 F_{2020}/F_{MSY} の中央値は0.41(同0.19~0.89)となり、資源状態は乱獲状態でもなく過剰漁獲でもない判断された。

管理方策

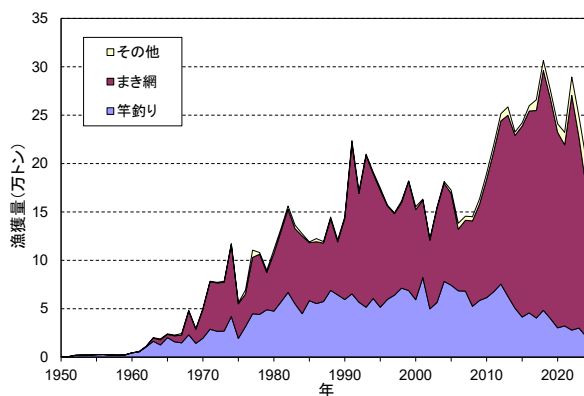
2014年11月のICCAT年次会合において、データ不足に起因する資源評価の不確実性がSCRSから指摘されたことを踏まえ、既存の熱帯まぐろ保存管理措置に含める形で、管理方策が初めて設定されることとなった。それにより、カツオを漁獲する漁船のICCATへの登録、FAD操業の禁漁区・禁漁期等が設定されることとなった。FAD操業の禁漁区・禁漁期は新たなものが2015年に決定され、2017年より1~2月のアフリカ沿岸域~西経20度、南緯4度~北緯5度の範囲で適用することとなった。2019年のICCAT年次会合において熱帯まぐろ保存管理措置が改定され、2020年には1~2月の2か月間、2021年には1~3月の3か月間、大西洋全体においてFAD操業の禁止を決定した。FAD数は、1隻当たり一度に350基(2020年)及び300基(2021年)までとなった。2021年のICCAT年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が一部改定され、2022年においては1月1日~3月13日の72日間のFAD禁漁を決定した(その後2024年まで延長)。2025年のICCAT年次会合において熱帯まぐろ保存管理措置の改正案が採択されたものの、FAD禁漁は現行の3月17日~4月30日の45日間、また、FAD設置数上限は現行300基から2026年~2027年に288基へ削減することとなった。また、西部大西洋資源について、2026~2028年の当初TACを30,844トンとする管理方式(MP)が採択された。



大西洋におけるカツオの海域別漁獲量の推移 (1950~2024年)

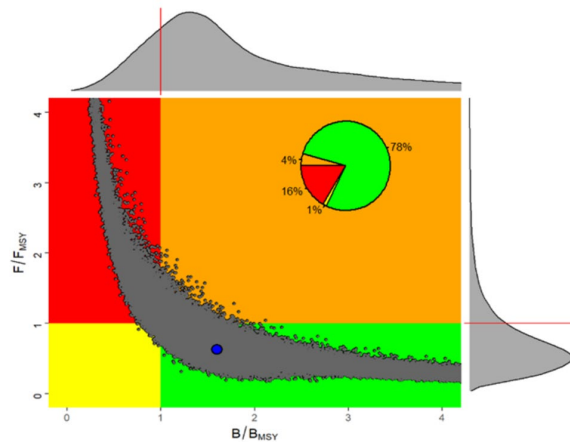


東部大西洋におけるまき網によるカツオ漁獲量 (1操業あたり漁獲量)の推移 (1991~2016年)
 France FADs: フランスのまき網船・FAD操業、
 Spain FADs: スペイン・その他のまき網によるFAD操業、
 Free schools all PS: まき網による素群れ操業。

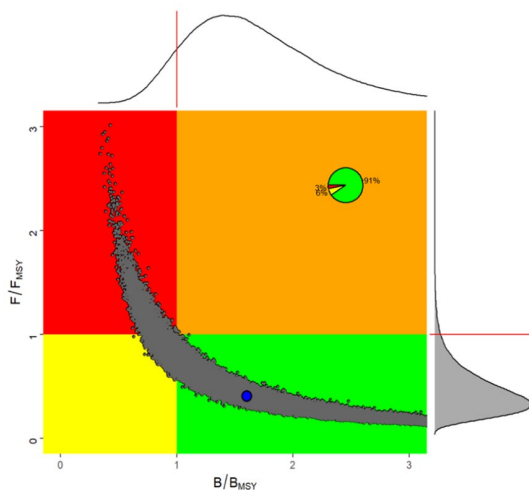


大西洋におけるカツオの漁法別漁獲量の推移 (1950~2024年)

カツオ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 （最近5年間）	20.5万～28.9万トン 最近（2024）年：20.5万トン 平均：24.3万トン（2020～2024年）
我が国の漁獲量 （最近5年間）	1.9～10.0トン 最近（2024）年：10.0トン 平均：4.2トン（2020～2024年）
資源評価の方法	プロダクションモデル（JABBA） 年齢構成モデル（SS3）
資源の状態 （資源評価結果）	$B_{2020}/B_{MSY}=1.60$ （0.50～5.79）（東部） $F_{2020}/F_{MSY}=0.63$ （0.18～2.35）（東部） $B_{2020}/B_{MSY}=1.60$ （0.90～2.87）（西部） $F_{2020}/F_{MSY}=0.41$ （0.19～0.89）（西部） 東部西部ともに2020年の資源状態は、過剰漁獲及び乱獲状態ではない
管理目標	MSY（216,617トン（東部）） MSY（35,277トン（西部））
管理措置	<ul style="list-style-type: none"> ・漁船登録 ・FAD操業の禁漁期、FAD数制限 ・西部大西洋資源について、2026～2028年の当初TACを30,844トンとする管理方式（MP）を採択
管理機関・関係機関	ICCAT
最新の資源評価年	2022年
次回の資源評価年	未定



東部大西洋のカツオにおける
最新年（2020年）の B/B_{MSY} と F/F_{MSY} の水準
青丸は中央値を表す。



西部大西洋のカツオにおける
最新年（2020年）の B/B_{MSY} と F/F_{MSY} の水準
青丸は中央値を表す。